

普及センターだより

くりはら

宮城県栗原農業改良普及センター

第 143 号



思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木 5-1
TEL 0228-22-9437 (地域農業班)
0228-22-9404 (先進技術班)
FAX 0228-22-6144
E-mail khnokai@pref.miyagi.lg.jp
URL: <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin/>



ドローンによる大豆の病害虫防除作業

ロボット技術や ICT 活用するスマート農業の導入は、『人力畜力→農業機械化』以来の農業分野の一大イノベーション（革新）とされており、令和 2 年度農林水産省概算予算要求では前年比 2.5 倍の「スマート農業の社会実装・技術開発」予算が要求されています。栗原地域でも、限りある人的資源の活用・効率化を目指して、導入に踏み切る農業法人が出始めています。

国際的な経済環境変化・担い手の高齢化・鳥獣害や耕作放棄地増加など解決すべき課題山積の営農環境ですが、将来を見据えて省力化・精密化を実現させる「スマート農業」情報を収集検討されてはいかがでしょうか。

今秋、豚コレラが関東地方まで拡散した時期に台風 15 号被害による千葉県の大規模停電が

発生し、大規模養豚場の「豚コレラ対策まで手が回らない」苦境が伝えられました。また、台風 19 号では、関東や東北などに大きな被害を及ぼし、本県でも阿武隈川・吉田川流域を中心に大きな被害が出ています。

このような過去に経験したことのない災害が、個々の農業経営に大きな打撃を与えている昨今です。今こそ「危機に備える」未然の準備が必要です。本年 1 月から開始している農業経営収入保険制度は、「危機への備え」の一つ。令和 2 年の新規加入申込みは 12 月末まで。加入をお勧めいたします。

農業普及指導専門監
佐藤 啓 一

栗原地域園芸活性化プロジェクトの取組について

当所では、みやぎ食と農の県民条例基本計画に基づく圏域重点プロジェクトとして、栗原地域園芸活性化プロジェクトに取り組んでいます。その主な活動状況について報告します。

No.1 ズッキーニ生産拡大プロジェクトの取組について

普及センターでは、JA、栗原市とズッキーニ生産拡大プロジェクトを立ち上げ、ズッキーニの産地育成に取り組んでいます。

今年度、ズッキーニの生産拡大に向け、新規作付け者向け栽培講習会の実施や未作付け者への声かけによる栽培面積の拡大を図るとともに、栽培講習会、現地検討会、巡回指導、視察研修会の開催、夏季の高温対策の検討による収量の向上に取り組みました。

また、量販店・県庁・栗原市民まつりでの展示即売、テレビ情報番組等での広報により、産地のPRを行うとともに、7月3日から16日までの2週間、仙台市内飲食店(15店舗)でズッキーニ料理フェア「くりはらズッキーニウィーク」を開催し、2000食以上の料理が提供されるなど、多くの方にズッキーニ料理を味わっていただきました。

今年度は、これまで新たに5人の生産者がズッキーニの作付を行い、8月までの販売額は前年と比べ2割の増加となりました。普及センターでは、関係機関と連携しながら、販売金額1億円を目指し生産拡大と産地のPRによる消費拡大を進めていきます。



TV番組で産地をPRしました

No.2 ぶどう「シャインマスカット」の栽培技術研修会を行っています

栗原地域では、新たな園芸品目として栽培が行われている、ぶどうのシャインマスカットについて、生産者の技術向上と新たな栽培者の掘り起こしを図るために、栽培技術研修会を実施しています。

生育調査ほを依頼している株式会社アグリ東北のハウス栽培ほ場を会場に田中代表取締役を講師として、実際の栽培管理を実演する方法で行いました。研修会は開花を迎えた6月からせん定を行う12月まで4回開催しており、6月はジベレリン処理と新梢管理について、7月は房づくりと袋かけについて、そして、9月には収穫適期の把握について行い、これまでのべ49人の参加がありました。

なお、最終回として12月には整枝せん定技術について学んでいきます。また、11月には、

ぶどうの新規栽培希望者等に対する研修会を計画していますので、参加を希望される方は、普及センターへお問い合わせください。



栽培技術研修会で指導する田中講師

GAP（農業生産工程管理）に取り組みましょう

令和元年度宮城県総合畜産共進会が開催されました。

令和元年9月6日に宮城県総合畜産共進会【肉豚の部】が宮城県食肉流通公社で、9月13日～14日に【肉用牛の部】、9月25日に【乳用牛の部】が、みやぎ総合家畜市場にて開催されました。栗原管内からは、【肉豚の部】では16頭が出品され、第1区では最優秀賞を受賞、第2区では名誉賞を受賞しました。【肉用牛の部】では14頭が出品され、第1～3区にて最優秀賞を受賞しました。【乳用牛の部】には2頭出品され、第3区と4区にて最

優秀賞を受賞しました。県内全域から多くの肉豚、肉用牛や乳用牛が出品された中で、栗原市の畜産をアピールすることができました。

なお、優秀な基幹種雄牛「茂福久」を育成した栗原市金成 岩淵のり子氏が家畜改良功労者として（一社）宮城県畜産協会長から表彰されました。栗原市からは、例年、優秀な種雄牛が生産され、宮城県の肉用牛の発展に貢献しています。

令和元年度 宮城県総合畜産共進会最優秀賞受賞者一覧（敬称略）

【肉豚の部】

区 分	出品者	地区
第1区 (ミヤギノクロス三元交雑種)	千葉 房義	一迫
第2区 (上記以外)	千葉 房義	一迫

【肉用牛の部】

区 分	出品者	地区
第1区 14ヵ月以上17ヵ月未満	千葉 良二	鶯沢
第2区 17ヵ月以上20ヵ月未満	須藤 正寿	金成
第3区 経産	鈴木 和哉	若柳

【乳用牛の部】

区 分	出品者	地区
第3区 未経産 12ヵ月以上16ヵ月未満	(有)小山牧場	一迫
第4区 未経産 16ヵ月以上20ヵ月未満	(有)小山牧場	一迫



肉豚の部で名誉賞を受賞した千葉房義氏

大豆を適期に収穫しましょう

間もなく大豆の収穫時期を迎えます。品質低下を防ぐため適期収穫を心掛けましょう。

コンバイン収穫時の確認項目

- 雑草や青立ち株を抜き取っている
- 子実には爪を立てると少しあとが残る [子実水分 15～18%]
- 茎がやや黒みを帯び、手でポキッと折れ、茎にぬめりがない [茎水分 50% 以下]
- 茎や莢が湿っていない (前日～当日に降雨なし、収穫時間は午前 11 時～午後 4 時)
- コンバインに土やほこりなどの汚れがない
- 刈取り高は約 10cm (土の掻き込みによる汚損粒を防ぐ)

* 難防除雑草 (アレチウリ、帰化アサガオ類など) 発生ほ場や シストセンチュウ多発ほ場 では、他のほ場への被害拡大を防ぐため、収穫作業は可能な限り後回しにする。

農業用廃プラスチックは適正に処理しましょう

<新任農業士の紹介>

今年度、栗原市内から新たに指導農業士2人が宮城県知事より認定されましたので御紹介します。

☆狩野 常幸 氏 (指導農業士, 栗駒)



米の生産に加え、集荷や農産物検査業務、販売まで一貫した経営を行っており、「生産現場から食卓までみんなの笑顔を保つような経営」を目指しています。生産面では、地域畜産農家の生産する完熟堆肥の施用により地力維持に努めており、平成30年度には宮城県農林産物品評会水稻（うるち玄米）部門で農林水産大臣賞を獲得するなど高品質・良食味米を生産しています。

☆高橋 敦司 氏 (指導農業士, 若柳)



就農時に花苗部門を立ち上げ、現在は水稻部門を統合して経営主となっています。花壇苗の出荷先は、量販店と市場出荷を併用して危険分散を図っており、特に、量販店向けは全て受注生産、市場出荷も一部受注生産として、受注計画に基づいた安定出荷により信頼・収益性を確保しています。宮城県鉢物生産組合等に積極的に参画して技術研鑽しており、花き品評会等での受賞など高い評価につながっています。

農地中間管理事業を活用しませんか！

農地を貸したいが、貸す相手が見つからない。後継者がいないことへの不安。農地の規模を拡大したいが集積の方法が分からない。など、農地に関してお困りのことはありませんか。

その解決のために、農地中間管理事業を活用してみたいかがでしょう。農地中間管理事業とは、公益社団法人みやぎ農業振興公社（宮城県農地中間管理機構）が農地を貸したい農家と受けたい農家を仲介し、貸し借りを円滑に行うための橋渡しを行っております。

今年度、栗原地域を担当する二人の地域コーディネーターが栗原地域事務所農業振興部に駐在しております。地域等で農地の話し合いや相談等がありましたら、地域コーディネーターが説明等に伺いますので、是非御活用ください。

地域コーディネーター

佐藤 律夫、中澤 和志

連絡先：宮城県北部地方振興事務所栗原地域事務所農業振興部地域調整班

TEL：0228-22-2268

令和元年秋の農作業安全確認運動

<運動期間>

【令和元年9月15日から令和元年11月30日まで】

<スローガン>

【まずはワンチェック、ワンアクションで農作業安全】
“気をつけよう”だけでなく、指差し確認など具体的な行動で安全を確保しましょう！！

<主な取組内容>

『トラクターによる事故の防止』

乗車時のシートベルト、ヘルメット着用の声かけ

『高齢者による事故の防止』

家族等への農作業事故防止啓発、作業員への声かけ徹底



【出典：農林水産省 Web サイト (http://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/)】

来作に向けて土づくりを実施しましょう

この「普及センターだより くりはら 第143号」は、1,100部印刷し、1部あたりの単価は35.2円です。